

1. コープしが福祉の指針

私たちは人のつながりの中で、よりよい暮らしを共につくる
ウェルビーイング（well-being）としての福祉をめざします

コープしがは、福祉を広くとらえ、高齢・介護、障がい、子育て、生活困窮といったくらしの課題を個別にとらえるのではなく、一人ひとりの人が、社会的なつながりの中で、その人らしさをもって幸せに生きられることと考えます。

誰もが、年をとっても、障がいがあっても自分らしさを発揮し、おたがいさまの心のもと、みんなが幸せに暮らせる社会をつくる協同の担い手になることができます。

コープしがは、人はみんな一生を通して人間力を発揮することができるという人間尊重の理念に立ち、よりよい暮らしを共につくる協同としての福祉＝ウェルビーイング（well-being）としての福祉をめざします。

2. 福祉を取り巻く情勢

今、少子高齢化の進行や家族形態の変化、地方では人口減少による社会・経済活動の弱体化や地域のつながりの希薄化など、私たちの生活環境は大きく変わっていく中で、高齢者の孤独死、子育て家庭の孤立、児童虐待など様々な問題が起きています。このような中、公的福祉は少子高齢化への対応を謳いつつも、社会保障制度全般が大きく切り詰められている現状があります。

国は市場の自由競争を推進することで経済の活性化につながり、富の再分配によって社会保障の充実と安定をめざしてきました。しかし過度な市場化や規制緩和は価格競争を招き、企業の二極化が進行し、雇用の不安化や経済格差、貧困問題などが生まれています。そのような中、社会保障の財源確保の名目で、公的福祉サービスの縮小や給付を抑制する動きがあります。また定年の延長や働き方改革による労働者人口の確保、公的年金の給付と負担のバランスなど、国民の負担が避けられない社会保障の課題があります。

国民は、憲法第25条に謳われている「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を有しており、「生存権」「基本的人権」はくらしを守る権利として結びついています。福祉・社会保障を考えると、憲法が生きる社会づくりの視点を大切にしながら取り組みをすすめる必要があります。

3. 地域社会づくりでの協同組合の役割 ～ 少子高齢化社会のなかでのくらしをつくる

福祉を取り巻く情勢にあるように社会保障の課題が様々ありますが、私たちの暮らし方、働き方、協同の仕方によって地域のあり様を変えていくことで、みんなが幸せに暮らせる社会を実現することができます。

協同組合は、共通の目的をもった人たちが、その目的を達成するために組織した相互扶助組織です。生協は*協同組合の価値としての「自助」を地域に広げ「共助」へと高めることを通して、地域を豊かにするとともに、一人ひとりの生活が守られる公助としての社会保障についても、生活者の組織として社会的発言をすすめる役割を持ちます。

*協同組合の価値としての「自助」= 協同組合のアイデンティティに関するICA声明で、協同組合の価値を「協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。以下略」としています。
ここで述べている「自助」は、一人ひとりの伸びる力を信じ、独りで悩まない、おたがいさま、しあわせを分かち合い共有することを意味し、前述した「ウェルビーイング」の基礎にもなっています。また、声明では協同組合の価値を地域に広げることを重視し、「コミュニティへの関与」を原則の一つとしています。

4. コープしながめざす地域福祉 ～ともにつくる笑顔あふれる未来

地域福祉とは、地域に暮らす誰もが安心して、その人らしい暮らしを続けていくことができる地域づくりに取り組むことです。

地域には幅広い世代の人びとが多様な「困りごと」「心配」を抱えて暮らしています。コープしながは、そのことを踏まえ、「ともにつくる笑顔あふれる未来」を理念として、事業と活動を通じて人と人のつながりをつくり組合員の困りごとに寄り添うことに取り組んでいます。これらの力を更に強めて活かし、子どもから若者、子育て世代そして高齢者、様々な障がいをもった方も視野に入れコープしながとしての総合力によって地域福祉の取り組みをすすめます。

どの地域の組合員も、どんな分野を受け持つ役職員も、それぞれの足もとで直接に地域福祉に携わっています。そこでの人と人の関わりの中で、“私は”、“私たちは”どんな参加ができるのか。組合員も役職員も、一人ひとりが自らのこととして考えることができるよう、みんなで学び、考え、話し合い、行動していくことをめざします。

5. これからコープしながが福祉の視点で行っていくこと

(1) 生協の力を活かした総合的なサポート力の発揮

コープしながは、すべての事業を福祉視点から組合員のふだんの暮らしに役立ち、総合力で地域福祉への参画をめざします。

①生協事業により組合員の多様な暮らしのお役立ちを総合的にサポートします。

- 組合員一人ひとりのライフステージにおいて商品、共済、夕食サポート、コープでんき、介護など、暮らし全般に関することを生協事業の利用を通して、安心とお役立ちが実感できる総合的なサポートをめざします。
- 事業所内保育や障がい者雇用などに着手し、よりよい暮らしを共につくることをめざします。

②誰もが安心して利用できる宅配事業と店舗事業

- 宅配事業では、いつでも誰もが安心して利用できる仕組みづくりをすすめます。注文のしやすさ、世代や世帯構成に応じた商品、滋賀県内どこでもお届けできる仕組みづくりを組合員、地域とともにすすめます。
- 店舗事業では、毎日の食事提案、楽しさ・利用しやすさ、福祉、環境にやさしく、あったかさのある店舗づくりをすすめます。お買い物サポートカーやお買い物代行などお買い物支援を広げます。
- 滋賀県各地域でそれぞれの地域にあった事業づくりをすすめるため、自治体・地域諸団体との協同をすすめます。

③持続可能な、地域に根差した介護事業の推進

- 高齢生活に必要なケアを、地域に深く根差した事業運営によって提供します。
- 生協の介護事業として利用者の声に基づき、その人の自立支援にお役立ちする介護のため、絶えずケアの質を磨くとともに、持続可能な経営をめざして運営改善に取り組みます。
- コープしがの生協としての長所が活かされた地域包括ケアシステムの参加として、地域の中で障がい者福祉やささえあいサポートなど、地域諸団体との協同といった生協の価値を多面的に発揮することをめざします。

(2) 人のつながり、地域諸団体とのネットワークを活かした地域福祉への関わり

コープしがは、協同組合組織として、人のつながり、地域のネットワークを大事にし、一人ひとりが参加・交流し、ともに学び、考える場をつくりながら、地域福祉づくりを推進します。

①ささえあいサポートを通じて「おたがいさま」の関係を地域に広める

- ささえあいサポートを推進し、組合員どうしが困りごとについて手を貸しあえる助けあいの輪をさらに広げます。

②地域福祉ネットワークづくりと協働

- 地域の自治体、諸団体への訪問や交流をすすめ、地域福祉のネットワークにより広く関わっていくことをめざします。
- 超高齢化、単身世帯の増加、生活困窮、子どもの貧困問題など様々な地域の課題を知り学び、地域の人や諸団体と協同し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに関わります。

③地域福祉を考える、話し合う

- 「誰もが安心して住み続けられる」「暮らしをよくしていく」視点で福祉を捉え、私たちの地域に応じた私たちの、ふ・く・し（ふだんのくらしのしあわせ）について話し合います。

(3) 社会的役割の発揮

コープしがは、私たちが生きるコミュニティに貢献する視点に立ち、広く福祉・社会保障をめぐる課題について、生活者の協同組織としての社会的役割に取り組んでいきます。

①生活者の組織としての協同組合の社会的提言

- 福祉をめぐる地域課題について自治体や社会福祉協議会、地域諸団体との協同をすすめ、組合員の声を活かした地域福祉づくりに参画します。
- 福祉・社会保障をめぐる社会的問題について、日本生協連や地域の医療・介護事業者とともに学び、国や行政に対し制度化・施策化のための働きかけをすすめます。
- 介護保険制度の改定に対し、暮らしを守る協同組織として、日本生協連や地域の医療・介護事業者とともに、制度をめぐる社会的課題について取り組んでいきます。

②福祉積立金の有効活用

- 組合員が自らのニーズに基づき、創り出し・発展させてきた事業を、より多くの組合員が利用出来るように、利用しやすく、参加しやすくするための積立金活用を絶えず検討・具体化します。
- 地域福祉に取り組む人づくりや他団体との協働がすすめられるよう運用の改善や見直しを行い、より有効な取り組みになるようにします。

以上